

議長（山本 陽一郎君） 次に9番、山口一成議員。

9番（山口 一成君） 大変暑い夏が過ぎ、2学期がスタートいたしました。けれども、まだまだ暑い日が続くようでございます。

先日、ある本を見ておりましたら、地球がこの10年間で、3センチメートル右回りをしておるといことが、本に書いてありました。その本というのは、この近くの藤原の篠立の風穴の調査の中に、この10年間で地球が3センチ右回りしておるとい結果が出ておりました。そのことと今の暑さとは、僕はそれほど関係はないなと思いましたが、やはりこの温暖化や酷暑の中での私たちの生活や、また年寄りの方の、エアコンはあっても、それをつけずに亡くなってしまっておる、そういう痛ましい事件も、この夏は起きております。

私たちが社会保障を言い、福祉を言い、高齢化や介護の問題を口にはいたしますが、なかなか実質、当たって見ないことにはわからないというような問題がたくさんございます。

先日もプールへ行きました。そしたらプールのおばさんが、「このプールは三重県下で一番きれいなプールなんだ」このように言われました。また、中部公園へ行きましたら、シルバーの方が、「このパークゴルフ場は県下のほうから一番いいパークゴルフ場である、公園である」といようなおほめの言葉もいただきまして、私は大変うれしく思うと同時に、これからの社会生活を、私たちはどのようにしていかなければならないかといことを考えさせていただきました。

そのような意味で、以下3点の質問を今日はさせていただきたいと思ます。

1点目は、子宮頸がんワクチン接種の公費助成を求める問題を、町長や教育長から答弁をいただきたいと思ます。

2点目は、町内の小中教員の勤務実態をどう認識しているかといことを、教育長にお尋ねしたいと思ます。

3点目は、中部公園地方債償還状況と年間維持管理費についての3点の質問をしたいと思っておりますので、よろしくご答弁のほどお願いしたいと思ます。

1点目の子宮頸がんワクチン接種の公費助成を求めることでございますが、この9月は「がん征服月間」でございます。これは新聞にも出ておりましたし、ラジオでも、またテレビでもやっておりました。

私は元教師として、この問題について、東員町を背負って立つ将来の子どものことを考えたときに、健やかに育てもらうためには、どうしてもこのことは大事だといふふうに思いました。

そのことはどんなことかといますと、私のうちに深刻な相談が2件ございました。1件は東員町です。1件はいなべ市からです。このことを聞き、東員町の方には子どもも来いと言ったけれども、子どもは来ませんでした。けれどもいなべ市の方は、子どもも連れてうちへやってみえました。その深刻な話は、やはり皆さん方

に具体的に報告をすべきではないというふうに私の判断がありますので、それは申しません。

けれども子宮頸がんワクチンは、ほとんどの世界各国で承認されたワクチンでございます。そういうようなことから、中学校の体育保健の先生にも聞きました。そしたら即座に、早急にお願いしますということの言葉が返ってきました。養護教諭の先生にも、早いこと、先生お願いしますということがございました。そのことから私は薬剤師の方にも聞きました。少々は2、3日、痛みがありますけれども、要望を聞いてきました。これらは当然行政がやるべきことだと私は思いますので、子宮頸がんワクチン接種の公費助成を強く求める次第です。

町長の答弁を求めたいと思います。よろしくお願いします。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） 山口議員の「子宮頸がんワクチン接種の公費助成を求める」のご質問にお答えを申し上げます。

子宮頸がんは、子宮の頸部に発生した悪性腫瘍で、ヒトパピローマウイルス（HPVウイルス）が原因とされております。このウイルスには、新聞で報道もされておりますけど、100種類以上のタイプがございまして、そのうち15種類が、子宮頸部がんに関与していると言われております。

HPVウイルスは、性交渉により感染することが知られておりますが、HPV感染そのものはまれではなく、HPVウイルス自体は、女性の約8割が感染するとされており、感染しても多くの場合、症状のないうちにウイルスが排除されると考えられております。ウイルスが排除されずに感染が続くと、一部に子宮頸がんの前がん病変や子宮頸がんが発生すると考えられております。

子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）は、HPVウイルスの中でも、子宮頸がんの原因の6～7割とされる16型、18型の2つの型の感染を予防します。社団法人日本産科婦人科学会等では、11歳から14歳の女子に対して優先的にHPVワクチンを接種することを強く推奨をされております。接種は3回必要で、費用は約5万円で、経済的負担は大きいと言えます。

全国的に見ましても、財団法人予防接種リサーチセンターの資料によりますと、7月8日現在、20の市町村において助成されており、また三重県では、これも新聞報道されました。伊勢市が中学生を対象に3回の接種に対し、上限5万円の補助を行うということで決定され、議会の予算を通っております。しかし近々のお話の中で、まだされてみえないそうでございます。

最近の国の動きといたしましては、8月4日に、長妻厚生労働大臣が、子宮頸がんワクチンの公費助成を2011年度の予算の概算要求に盛り込む方針を明らかにし、さらに8月16日には厚生労働省が2011年度予算の特別枠に、この助成分150億円を盛り込むことが明らかになりました。

本町といたしましては、国の動向は注視するものの、それにこだわることなく、感染予防、負担軽減、医療費削減の観点から、予防接種環境整備について、医師会へ協力要請を行い、接種費用助成について、積極的に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君）          山口議員。

9番（山口 一成君）          ただいま町長から、このような子宮頸がんワクチンがどのようにできるかということや、厚生労働省の予算のほうも、ある程度来年度の予算で150億円ですか、160億円ですか、そのようなものを予算要求したいというような話がありました。

私は父兄から聞いた話の中から、「あっ、こんなにも急激に進んでおるのか」ということを思いまして、グラフにしてみました。（山口議員グラフを示す）この折れ線グラフは大変わりにくいかと思えます。けれども下から中学生、2番目が高校生、上が大学生というふうに書いてあります。黒の折れ線グラフが男子、赤の折れ線グラフが女子というふうに、私は書いたつもりでございます。

このグラフを見ていただきますと、おおよそわかると思えますけれども、このような深刻な問題があるんだということが、ただ、私は父兄から聞いただけでは、それほど深刻な問題ではないというふうに考えておりました。高校生ぐらいやろうというぐらいのこの認識はありました。けれどもそうではないということがわかりました。

そういう中で町長から今、積極的な推進の話がありましたので、もうこれ以上言うことはないかなと思うわけですが、一中の先生からは、このような話を聞きました。ということは、東員町の一中の女子は53名、二中の女子40名、これは3年生でございますが、計93名でございます。それから一中の女子全体は177名、二中の女子は126名です。ぜひとも町から子宮頸がんを減らすために、希望者全員に接種が受けられるよう要望するものであります。

反面、日本には不妊治療の希望者が約47万人もいることを忘れてはならないと思います。県の医師会の話が出ました。けれどもワクチンの量の問題であるとか、東員町の医師会の合意、協力というものも問題があると思えますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。これは私の本当に切実な涙ながらの要求でございます。

積極的なご答弁、大変ありがとうございました。

次に2点目に移ります。

2点目は、町内小中学校の先生方の勤務実態というものを書きました。このことはある学校へ行きましたら、この間から、こういう調査が来ておるんだということでした。そのことはどういうことかと言うと、人権の問題です。教育委員会からも来る。県の教育委員会からも来る。またもう一つは同和の問題からも、同じような

調査が来るんだということでありました。そのような中から、これは教育委員会で一本化ならんものかなというようなことを私は最初に思いました。

そのことと現在の学力向上の問題や、いじめ・不登校の問題は、同僚議員が先ほど申されました、多くの問題を抱えておる小中学校の先生方でございます。

これに対応するには、第一番に学校の対応力や教師の資質の向上が求められますけれども、こうした問題の解決に邁進しようと思っても、なかなか諸行事があって大変だということが、この間もわかりました。

先日、暑い中で防災訓練がありました。けれども稲部の小学校の教師は夜 8 時まで、夏休みの作品の展示があったんです。夜、父兄がたくさんみえました。その後、それを片付けて町の仕事のお手伝いを少しして、皆さんが帰っていかれたのは本当に遅かったということを知りました。

そのような中で職員の子どもへの対応みたいなものは大変であろうと。私が教師をしておった時分とは全然違うということを感じました。

特に研修へ行かなくてはならないというようなことであるとか、電算化といいますか、IT といいますか、デジタルの問題であります。このような中で児童生徒一人一人に向き合う教師というのは、なかなか大変やということです。

私の時代では、学級だよりを私は毎日出しておりましたけれども、校長先生にも教頭先生にも見せることなく、そのまま出しておりました。けれども今はすべて教頭を通し、校長の目を通さないことには、学級だよりが出せないというような現状であるわけです。

そういうような中で、子どもたちと残って問題を教えたり、例えば家庭の状況であるとか、学力の問題であるとか、「おまえ、こんなところで心配しているのと違うのか」というような話ができない。そのことはどういうことかといったら、一斉下校をせんなんというような状態があるわけなんです。特別 1 人、2 人残すというようなことはありますけれども、そういう中でこのような教師の過重労働、そういうようなものを教育長はどのように認識されてみえるのかということをお聞かせいただきたいと思いますし、その改善に向かってどのような方法があるのか、お聞かせ願いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 山口議員の小中教員の勤務実態に対する認識についてのご質問にお答えをいたします。

教育委員会といたしましては、平成 20 年に策定いたしました「東員町立学校職員に係る過重労働による健康障害防止のための対策実施要綱」に基づき、毎月、全職員の超過勤務の調査を行い、勤務状況を把握しております。月に 4 5 時間を超える時間外労働をした場合、本人が「疲労蓄積度セルフチェック票」を学校長に提出し、教育委員会でも確認をしております。また、月 100 時間を超える時間外労働

をした場合、または過去の2カ月から6カ月までの期間のうち、いずれかの時間外労働時間の月平均が80時間を超える場合には、さらに「仕事の過重性等セルフチェック票」により本人の状況をつかみ、疲労度や自覚症状に応じて学校長等の面接指導を受けていただき、対応を行っているところでございます。

本年度の状況を申し上げますと、4月から6月までの3カ月間の平均値として、ひと月当たりの時間外労働時間は小学校が24.46時間、中学校が52.55時間で行ってまいりました。この時間は、ノートの点検やプリントの作成などの持ち帰りの仕事を含んでおりませんので、1日当たりの労働は、さらに長時間にわたっているのが現状でございます。

授業の業間はもちろん、昼休みも給食指導等で休憩時間は取れず、一日の勤務の中で休憩時間を割り振りかえておりますが、完全な取得は、なかなか困難な状況でございます。

また、中学校におきましては放課後の部活動、あるいは土日の練習や大会などが超過勤務の大きな割合を占めております。これまで土日の練習であれば、どちらか一日は休みにする呼びかけや、1週間に1日のノー部活動デーの設定をしてまいりましたが、保護者や生徒からの要望や期待もあり、簡単には部活動時間を短縮することはできないのが現状となっております。

教職員の総勤務時間の縮減につきましては、非常に大きな課題であると思っておりますが、残念ながら特効薬が見つからない状況でございます。

しかしながら教員が子どもと向き合う時間を増やし、東員町の教育をさらに前進させるため、また、教職員の健康を保持するためにも、勤務時間のマネジメントが最重要であると考えております。

三重県教育委員会から平成17年に「教職員の総勤務時間の縮減に係る指針」が出されております。この指針では時間外勤務の短縮、年休の取得促進、休憩時間の確保といった、従来からの懸案課題に対する学校現場での意識の持ち方や、校長等による勤務時間のマネジメントの基本的スタンスを示すことにより、教職員の総勤務時間の縮減に関する取り組みの推進を目指しております。

各学校では行事や会議、あるいは研修会の持ち方等の見直しを行い、以前に比べ、改善されてきた部分もございまして、いま一度この指針に立ち返り、校長を中心にさらなる改善や見直しを促すとともに、教育委員会として、できる限りの支援を行ってまいりたいとも考えております。

勤務時間を有効活用する支援といたしましては、職務環境の改善が重要であるとも考えております。

例えば、デジタル機器を有効に活用することで効率化を図ることも、その1つだと考えております。昨年度末に整備していただきました液晶テレビ、実物投影機等を活用することで、授業の資料づくりの準備の時間の短縮を図ることが挙げられま

す。

また、この8月末に整備していただいた校務用パソコン、校務支援システムを活用し、必要なデータを職員間で共有して活用したり、授業の指導案など、財産を蓄積したりすることなど、今後働きかけ、今すぐには効果は出ないかも知れませんが、少しでも時間を有効活用できるよう、今後も取り組んでまいりたいと考えております。

また、学校に対する調査や報告などをできる限り減らすことも重要であると考えております。

各学校において、PTAにも連携を求め、学校が担うべきこと、保護者にゆだねられることを話し合うなど、何でも学校が抱えていかないように、保護者や地域と連携することも大切なことであると考えております。

幸いこの5年間、東員町では長時間労働に起因する健康障害で職員が休職するような事態は起こっておりません。しかし、このことは各校において、わかる授業づくりや仲間づくりなど、前向きな取り組みができており、各学校の状態が安定していることも、重要な要因の一つであると考えております。

教育委員会としては、教員が子ども達と向き合う時間を少しでも確保できますように、できる限り学校現場を支援する方策を考えていくとともに、教職員定数改善や教員の加配等の要望を、引き続きあらゆる機会に行ってまいりたいと思いますので、ご理解賜りますように、よろしくお願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君）          山口議員。

9番（山口 一成君）          具体的に各校・各先生方がいかに子どもと向き合うための仕事をどのようにやられてみえるかということが、私の頭の中に浮かんでくることができました。けれども、このことは積極的にやられてみえるんだけれども、何か時間数の問題が大きく阻害されておるのではないかというふうに私は考えるわけです。

ここに提示いたしましたのは(山口議員資料を示す)小学校6年間の国語・算数・理科・社会の授業時間の変化でございます。初めのうちは3,941時間、1年間にあったのに、5日制が導入されてから、2,941時間として1,000時間も減ったんです。そういう中で、教師のしわ寄せがどこに来たかということ、私たちは考えていただきたいなというふうに思うわけです。

しわ寄せはいろんな面に来ておると思うんです。一つは私は、こういうことではないかなというふうに思いました。親の所得格差でございます。

先日、ある人と話をしておりましたら、1に雇用、2に雇用、3に雇用という話が出てまいりました。学力テストの結果を見ても、なぜ学力テストで落ちていったかということが書いてありました。そのことについては、特に算数Bについて、三重県は55.8点と、私はここに書きましたけれども、こういう結果が出ておるわ

けです。この所得格差が親にも子どもにも影響し、夫婦間にも影響し、子どものいじめであったり、不登校であったりに起因するのではないかというふうに考えております。学力テストの採点について、教育長はどのように思われるのか、お聞かせを願いたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 山口議員の質問にお答えをいたします。

学力テストの採点は業者に委託をしております、学校現場では一切かかわりを持っておりません。

以上です。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 採点は丸投げでございます。この間、三和小学校で話をしておりました。「採点したらどうや、子どもがどこでつまずいておるかということはすぐわかるのと違うのか」こう言いましたら、「山口先生、そんなこと言ったら、私らのまた仕事の量が増えるやないかね」と、こう言われました。どこの民間会社へ丸投げしてみえるのか、教育長の答弁を求めます。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 学力テストというのは、全国学力調査を意味しているのですか、それとも東員町がやっているNRTという形ではないのですね。全国学力調査はベネッセ・コーポレーションです。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） なかなか答えていただけないようでございますので、私が言いますが、全国の学力テストは毎年やられております。今から43年前、私が現場にありました時には、学力テスト反対ということで、学力テストはなくなりました。けれども、その後ずっと続けてこられたわけでございます。

そういう中でやられたのは、民間のよく言う派遣会社、人材派遣会社と言ったほうがいいかもわかりませんが、その中で3,000人の方を雇って入札して行った。小学校はベネッセ、中学校は旺文社と聞いております。そういう中での採点であったわけですから。

ですからその採点の状況から考えてみて、どこでつまずいておるのかどうかということについては、なかなかわからんと思います。けれども全国から世界へ目を向けたときに、日本の算数Bの学力テストは大変劣っておるという結果報道がなされております。

それがゆえに、私は表2をつくってきております。これでございます。（山口議員表を示す）これは来年度から小学校で行われる算数の授業がどれだけ増え、また中学校でどれだけ増えるかということをお示しした表でございます。

この表を見ますと、1年生から6年生まですべて20時間から25時間、中学校

では35時間、1年生と3年生に数学の時間数が増えておるわけです。このことを考えるときに、年齢格差と同時に、応用問題がなぜできないようになったかということについては、およそ見当がつくと思います。

このことはどうしてかといいますと、このごろのテレビを見ておりますと、漢字の競争であるとか、漢字のゲームであるとか、そういうものが大変多ございます。また、子どもたちもうちでゲームをやっております。または、うちでの遊びはすべて室内で、そのようなことの遊びを続けております。正答か不正答か、できたかできないか、この二者択一だけで進められておるわけなんです。

そういう中で私が一番心配するのは、親のそういう状態ではなしに、これから私たちは先生方の要求や議員の皆さん方の要求で、電子機器、IT、デジタル化、そういうようなものを進めてきました。そういう中で人間関係というものは、何か機械に使われておるようで、薄れていく気がしてならないのでございます。

この間、今年の予算だと思いますが、デジタル化について、電子黒板が1台ずつ各校に配置されましたが、その利用状況をどう把握してみえるのか、お聞かせ願いたいと思います。

教育長、よろしく申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 議会場で、それぞれの電子機器に対しまして承認をしていただきまして、それぞれの学校に配置をすることができました。ありがとうございます。今年入ったばかりですので、すべての学校で、それが有効に活用されているかどうかという形はつかんでおりませんけれども、もうICT化というのは避けられないところがありまして、そのことを使いながら、実物投影機なども特に使わせていただいております。それぞれの学校、それぞれの先生が自分たちの教材研究を進めながらやっていただいているものと思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） この電子黒板でございますけれども、1階に置いたらなかなか移動ができないという苦情を私は聞いております。なぜでしょうか。教育長。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 現在、電子黒板は、それぞれの学校に数台という形になります。それぞれの階に1台という形になっておりますので、その移動の場合があります。ただ、地上デジタルテレビは、各教室に1台配置をさせていただきました。今度買っていただいた地上デジタルテレビは、将来、電子黒板という形で使われますので、学校の中でより頻度が高まり、活用性が高まったならば、将来電子黒板として使っていただけるように進めていきたいなと思っております。

以上です。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 電子黒板は大変大きいのだそうです。ですから戸を2枚開けても、横にしても、はすかいにしても、一たん入ったらなかなか出せないそうです。1階から2階へ上げようと思っても、なかなかそれはできるはずがないという話を聞いております。ですからもう少し小型化していただくか、何か分解して持っていくことができるか、そのようなことを考えていただきたいなというふうに思いますけれども、ある学校の先生は、このごろは昔よりも教師の自由がなくなったということを聞くにつけ、子どもと向き合う時間、遊ぶ時間が必要だと思えます。教師にゆとりがなかったら、デジタル化の波にすぐのまれてしまう、それがあ\nるのではないかというふうに思いますので、デジタル化のことにつきましては十分私たちも考えなくてはならないし、親も教師も考えなくてはならないことだというふうに思います。

3点目に移らせていただきます。

3点目は中部公園のことです。そこに書きましたように、今年の36億円かけた公園、前の辻教育長は天井のない教室だということを言ってみえました。私が最初申し上げましたとおり、よその県からも東員町の人以上に、このパークゴルフ場はすごいゴルフ場だというふうに言われておるといふうなことを聞いております。そういう中で残りの償還の問題など、詳しく聞きたいと思えます。

総務部長でも町長でも結構です。よろしく願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） 山口議員の中部公園についてのご質問にお答えをいたします。

先ほど36億円をかけた公園についての借金というんですか、公債費の残高等、総務部長と建設部長に詳しく答弁をさせます。全体的な公園の現在までの状況等について、私のほうからご答弁させていただきます。

平成16年11月の開園以来、5年と10カ月が経過をいたしたところでございます。以来多くの皆様にご利用をいただいております。大変喜んでいただいております。この間、皆様から様々なご意見・ご要望をいただき、皆様に楽しんでいただけるように改築・改造を行ってまいりました。

昨年度はパークゴルフ場の増設・改良、休憩施設の設置、遊びの広場の日よけ施設設置などを行わせていただきました。特に、その中の休憩施設につきましては、設計段階からパークゴルフクラブの方々にもご意見をいただき、完成した施設となっております。

また、ポニー広場につきましても、観光協会の皆さんが、5月と10月に設定を開催されておりました。ポニー広場の占用料も、東員町の歳入として処理をさせて

いただいております。

また「不忘之碑」が1つ建立をされておりますけど、その件につきましてご説明させていただきますけども、中部公園整備は、北大社地区の関係地権者の方々の格別のご協力のもとに完成をしたものでございまして、皆様のご厚情に感謝申し上げますとともに、公園が皆様に愛され、親しまれることを祈願して建立をしたものでございます。

本年度は、この中部公園が三重の子育て情報誌の中で、「三重県公園ランキング」第1位のグランプリを獲得させていただいております。大変ありがたいことでございます。これからも中部公園をご利用くださる皆様のお声を生かしながら、より楽しんでいただく場となりますように取り組んでまいりますので、ご理解賜りますようお願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 藤井総務部長。

総務部長（藤井 浩二君） 私からは中部公園の地方債償還状況について、お答えを申し上げます。

まず、中部公園建設にかかります地方債の借り入れ総額は17億1,450万円で、平成21年度末残高は8億8,158万9,000円となっております。平成21年度の元金・利子を合わせました償還額は1億2,607万4,000円で、既に償還額のピークは過ぎておりまして、今後年々減少し、償還が終了いたしますのは14年後の平成36年度となっております。

よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 水谷建設部長。

建設部長（水谷 史郎君） 私からは、中部公園の管理費について、お答えを申し上げます。

平成21年度の決算で申し上げますと、公園管理棟の管理業務、芝生、樹木の管理業務、それから遊具の保守点検、これらを合わせたの委託料に3,330万6,506円、それから修繕料、光熱水費等でございますけども、これに要する費用が448万157円で、いわゆるランニングコスト、経常的な維持管理費用といたしましては、3,778万6,663円を要してございます。

また、公園の整備費といたしまして、パークゴルフ場のジュニアコース9ホールを昨年度増設をさせていただきました。それから休憩施設、日よけのシェルター等の設置に2,142万9,450円を要してございます。

備品購入費では高額紙幣両替機を購入させていただきました経費といたしまして、75万1,800円を要しておりまして、昨年度中部公園に要しました費用は5,996万7,913円でございます。

よろしくお願い申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番(山口 一成君) 今、水谷部長から聞いたわけですが、私の調べでは、公園の管理、樹木の芝の管理、平成20年度は巧建社がし、平成21年度は東海緑産がし、平成22年度は巧建社がしておるわけですが、こうやって考えてみますと、2社が交互に委託されておると思うんですけども、建設部長の答弁をお願いしたいと思います。

議長(山本 陽一郎君) 水谷建設部長。

建設部長(水谷 史郎君) 昨年度は、先ほど議員おっしゃったとおりの業者のほうで落札をしております。これにつきましては、適正に業者を選定させていただいておりますので、結果としてそのような結果というふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

議長(山本 陽一郎君) 山口議員。

9番(山口 一成君) 公園の使用料でございますけれども、平成21年度の決算を見ますと、977万7,262円の収入があったと書いてあります。公園の占用料が5万3,462円入となっておりますが、このことについて、私には占用料というのがわかりませんので、教えていただきたいと思っております。よろしく願いします。

議長(山本 陽一郎君) 水谷建設部長。

建設部長(水谷 史郎君) まず、5万3,462円の公園占用料でございますけれども、これにつきましてはポニー広場、それからバザーテナント等の観光協会等へ貸し付けた公園の占用料をいただいた歳入分でございます。

使用料につきましては、先ほど議員おっしゃったように、昨年度で977万7,262円入っております。これにつきましては、そのうち972万3,800円、大半でございますけれども、パークゴルフの使用料等が主なものを占めておりますので、お願い申し上げます。

議長(山本 陽一郎君) 山口議員。

9番(山口 一成君) 占用料のことについては、観光協会から入ったポニー広場であるということがわかりました。先ほど、馬のまちとして先輩議員の話がございましたが、観光協会の資料を見ますと、年間約2,400人の方がみえたというふうに書かれておりましたが、つくられた経緯は、バーベキューであるとか、先ほど言いました休憩室であるとか、それは聞きましたけれども、観光協会が使われておるポニー広場というんですか、馬場についての経緯は、説明が議会には一回もなかったのですが、そのことについてお聞かせ願いたいと思っております。

議長(山本 陽一郎君) 水谷建設部長。

建設部長(水谷 史郎君) 観光協会の事業として、バーベキュー広場とか、初期から設定してあるものではなくて、観光協会の独自の事業として、スタートとしての経緯は、その近くにコスモスがございまして、コスモスマつりとあわせて、

子どもたちにそういったものを提供しようという観光協会のご尽力もございまして、あの場所を貸し付けたという経緯でございますので、お願い申し上げたいと思います。

議長（山本 陽一郎君）          山口議員。

9番（山口 一成君）          馬場のことについては、およそわかりました。特に会長をはじめ委員さん方、大変頑張ってみえることを知りました。

最後になりましたが、不忘之碑のことについて触れられましたけれども、私はランキング第一位ということをお聞きさせていただきましたので、できることなら東員町とか東員町長とか、最後に書かせていただくと、この写真の碑の一番後ろでございますが、一番いいかなというふうに思いましたが、北大社の皆さん方の総意であるということをお聞きしましたので、それは省略させていただきます。

特に碑のことにつきましては、私は佐藤孫治村長、三輪利夫町長、藤田敏彰町長、そのほか中村敏和町長、伊藤仁實町長、現在の佐藤均町長、ずっとおつき合いをしておりましたけれども、佐藤孫治村長とは、かやの中で、私は二見のある旅館と一緒に寝た覚えがあります。この中では、だれもみえないと思いますが、昭和25年の話でございます。その時、村長の佐藤孫治さんは、山口君といったか、若造といったか、そのところはわかりませんですけども、「聞いたら見に行け、見たらわかる、わかったら実行しろ、そのことが大事やでな」ということを言われておりました。そのことを私は肝に銘じて、現在も活動しておるわけでございますけれども、本当に立派な村長の方々がほとんど名前も残さずに亡くなられたことに対して、私は本当に不徳のいたすところかなというふうに思いますけれども、皆さん方ほとんど名前などは残らなくてもいい、実質残ったのは神田用水であったり、水神橋であったり、こういう建物であったり、公園であったりするわけでございますので、今後発展する、今日の新聞にも出ておりました、東員町のランクは亀山、菰野、川越、東員、上から5番目と言ったほうがいいでしょう。そういう実質の黒字経営を抱え、立派な安心した大丈夫な町であると私は確信しておりますので、今後とも頑張りたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。